

悪性黒色腫

悪性黒色腫の治療は、近年、デルマスコピーなど、皮膚科診断機器の進化に伴い、皮膚悪性腫瘍の早期発見が進む一方、未だに進行期に当科に紹介されることが多々あります。また、他臓器の悪性腫瘍と異なり、皮膚は免疫担当細胞が最も多い臓器であるため、腫瘍環境も多様性を持ち、それゆえ定型的な治療法が少なく、患者様一人一人に対する、オーダーメイド治療を行う必要がある疾患でもあります。このような、治療法の決定が困難である症例に対し、現在、当院腫瘍外来では、定型的な治療法に加え、従来の化学療法に加えた各種補助療法や各種分子標的薬の応用なども行っております。特に、2014年9月より使用可能となった抗PD-1抗体（オプジーボ®、キイトルーダ®）を用いた、根治的切除不能の悪性黒色腫患者をこれまでに45名治療しておりますが、2014年以前は生存期間の中央値が10か月未満であったのに対して、2018年9月現在、19か月（1年7か月）と大幅に改善しました。当科では、さらにこの治療薬の効果を増強する方法の開発を目的とした医師主導臨床研究施行し、第一層臨床試験が終了し、薬剤の最適容量を決定いたしました。また、現在、これらの治療効果、副作用の予測を可能とし、治療を最適化するための臨床研究を、日本医療研究開発機構・次世代がん創生研究事業・D領域の研究費の助成を受け施行しております。

このように東北大学の腫瘍外来では、東北大学皮膚科悪性黒色腫治療において、国内最先端の治療を提供するのみでなく、黒色腫早期発見のための診断機器の開発や、治療の最適化のための対外診断薬の開発、さらに免疫強化療法の開発を行っております。